NEWS LETTER

KYU-UEDAKEJUTAKU INFORMATION

八尾市指定文化財 安中新田会所跡
旧植田家住宅だより

Volume 10
2011年10月発行

植田家と大坂画壇Ⅱ

講座 植田家に眠る大坂画壇

講 座
『わらを使ってなわを作ってみよう！』

講演会
鴻池新田の災害略史

http://kyu-uedakejutaku.jp/

表紙：森 周仙《黄石公三略》

森 周仙（もり しゅうせん）　生没年未詳

江戸時代の絵師。田宮仲宣によって書かれた随筆『東牖子』（とうゆうし、享和３年 (1803) 刊）の挿絵にその名がみられることから、周峰、徹山らと同時代の森派の絵師と思われますが、詳しいことはわかっていません。

※節句幟（のぼり）について

昔は５月の節句に鯉のぼりではなく、こうした絵幟があげられていました。絵幟には、男子の成長を祝って、日本や中国の説話や勇ましい武将などの絵が描かれました。本図は中国の『史記』に基づいた「黄石公が『三略』を張良に授ける」場面が描かれています。

※企画展「植田家と大坂画壇Ⅱ」より

Contents

4 植田家と大坂画壇Ⅱ
講座「植田家に眠る大坂画壇」（明尾圭造氏）

6 夏休み自然学校「渋川神社の樹木調べ」

7 こどもガイド養成講座 3

8 講演会
「鴻池新田の災害略史
～風水害、地震、人災」（松田順一郎氏）

10 講座「わらを使ってなわを作ってみよう！」（安村俊史氏）

11 こども河内木綿体験と講座 & 河内木綿まつり

12 なにわの伝統野菜栽培日記⑩

13 旧家で愉しむ食事会

14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 -（四）」

15 今後のお知らせ

愛石《虎図》（部分）

植田家と大坂画壇Ⅱ

講座「植田家に眠る大坂画壇」

【企画展「植田家と大坂画壇Ⅱ」】

現在、旧植田家住宅の展示室では企画展「植田家と大坂画壇Ⅱ」が開催されています。昨年に引き続き、大坂画壇を取り上げましたが、今回は文人にとっての理想郷を描いたとされる山水画を中心に展示しています。

大坂画壇は現在ではあまり知られておらず、展覧会も数多く開かれているわけではありません。しかし、江戸時代の中ごろにはじまったとされる大坂画壇は、昭和の初めごろまで東京画壇や京都画壇と並んで、文人画を中心に質の高い作品を数多く生み出していました。その画壇を支えたのは大阪（大坂）やその周辺に住む商人や有力者などの富裕層で、植田家もそのひとつだったと考えられます。

現在、旧植田家住宅に所蔵されている大坂画壇の絵画は、その多くが掛軸の形で残されています。これらの作品は美術品でありながら、植田家の床の間を飾る調度品のひとつとして実用されていたものも多かったようです。バラエティに富んだ大坂画壇の絵画は季節ごとにかけかえられ、訪れる人の目を楽しませていたにちがいありません。

【講座「植田家に眠る大坂画壇」】

先日、この大坂画壇についての講座が開かれました。講師は大阪商業大学商業史博物館主任学芸員の明尾圭造さんで、大坂画壇をとりまく現状や、大坂画壇を今後　どうやって展開していけばいいかということなどについて話されました。

大坂画壇を支えた人びとは、いい絵さえかければ無名でも若くてもその絵師（画家）に惜しみない援助をしたのが特徴で、「学問や芸術はあくまで個人が自分の力量でやるもの」という、自主独立の気風があったそうです。では、今ではどうかというと、長びく不況の中、大阪の経済が落ち込んでいるせいか、大坂画壇の絵を買う余裕は官民ともになくなってきています。また、銘にこだわらずに安くていい絵を買う海外への流出が続いているといいますから、なんともいえない気持ちにさせられます。

講演中の明尾圭造氏

さて、今回の講座では「絵をどうやって鑑賞するべきか」というお話もありました。こう書いてしまうと堅苦しい話に聞こえますが、ぜんぜんそんな話ではありません。簡単にいえば「本来あるべき場所で、あるべき形で見る」ということになるでしょうか。「（旧家や料亭の床の間で）表具の説明を含めて一時間くらいかけて説明しながらおいしいものを食べて、お酒も飲んでっていうのがおもしろい」という明尾さんの言葉がとても印象に残りました。確かに、展示ケースの中に入れられた作品をガラス越しに立って見るよりは、床の間に掛けられたものを正座して見るほうが本来的で贅沢な鑑賞方法でしょうし、集まった人同士の話もはずむにちがいありません。できることなら、こういう会もやってみたいものです。

矢野鐵山《秋景山水図》

講座の後は展示室に場所を移して、展示されている作品を見ながらのスペシャルギャラリートークがありました。作品や作者についてのお話だけでなく、表具の説明などもあり、楽しい時間となりました。

今回の企画展で展示されている大坂画壇作品の中で目玉作品は、本稿の扉絵にもなっている黄檗の僧、愛石の虎の絵です。緻密で迫力がありつつもどこかしら愛嬌を感じるこの作品。「この一本だけを見ても損はない」と明尾さんも太鼓判を押す虎に、みなさんもぜひ会いにきてください。

安中新田会所跡 旧植田家住宅
学芸員　宮元 正博

7月24日(日) 晴れ

夏休み自然学校

渋川神社の樹木調べ

コレって何の木？

七月二十四日(日)。いよいよ夏休みがスタートし、夏の暑さも本格的になったころ、旧植田家住宅では、「夏休み自然学校」という企画で、渋川神社の樹木調べを行いました。

ふだん何気なく見ているけど名前を知らない樹木。旧植田家住宅の斜め向かいにある渋川神社には、こうした樹木がたくさん生育しています。その一本一本をみんなで調査してみようというのが今回の目的です。

参加者はこどもが対象で、六名と保護者のお母さんが参加してくれました。旧植田家住宅の講座室で簡単な説明をした後、さっそく樹木調べに向かいました。

渋川神社に到着すると、この日は夏祭りの準備中でした。その作業の間をお邪魔して、樹木の調査を開始。一人ずつ手渡された渋川神社のマップには高木と中木のある場所が記してあります。

樹木調べの風景

さて、この木は何でしょう？

「それでは、この木は何でしょうか？」と一本目の木を指さすと、スタッフも一緒に、みんなで木の特徴をじっくりと観察。樹木観察では、まず木の高さ、葉っぱの形、実の色、そして木肌などを見ます。特徴が分かったところで、樹木ガイドを見ながら該当する木をチェックしました。初めはガイドブックを頼りにしていた参加者たちも、後半になると、木の特徴を見ただけでその木が何の木であるかがよく分かるようになりました。

マップに書かれたチェックポイントも全て回り、樹木調べは終了。暑い中、蚊と格闘しながら参加してくれたこどもたちに、ご褒美として、井戸水で冷やしたスイカが用意されました。しばらく涼をとり、最後は再び講座室でお話を聞き、こどもたちはたくさんのことを学んで帰ってくれました。

ご褒美のスイカ

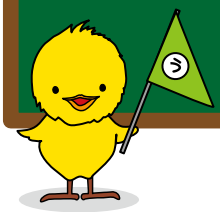
樹木についてのお勉強

こどもガイド養成講座3

ようせいこうざ

8月22日(月)

昭和のくらしを知ろう



長かった夏休みも残りわずかとなった八月二十二日（月）、こどもガイド養成講座3が開講された。今回のテーマは、「昭和のくらしを知ろう」ということで、参加者の小学生四名には、まず展示室の「昭和のくらし展」を見てもらい、次に土蔵1で「むかしの道具」の使い方などを学んでもらった。平成生まれのこどもたちにとって、昭和という時代は古臭くもあり新鮮だったようだ。

昭和のくらしの講義のあとは、講座室で障子の張替えに挑戦してもらった。この新しい体験にこどもたちは戸惑いつつも、よく説明を聞き、協力しあいながら、無事張り替える事ができた。こうした障子の張替えやかまどを使ったご飯炊きなど、日常の中で経験できる小さな喜びや達成感などを、今後ももっとこどもたちに知ってもらいたい。

～みんなの感想～

●アイロンが重くてびっくりした。昭和で、きものを着ている時があったのは、おどろいた。万ぱくはあらためて大きいことだと分かった。昔（昭和）の道具は、アイデアがいっぱいあるなぁと思った。

（小学5年　B・A）

●アイロンがとても重かったです。障子のはり替えがとても楽しかったです!!ふだんここにきて、色んな物をみてて、説明があって分かりやすかったです。

（小学5年　M・N）

●障子のはりかえがたいへんだったし、手がべとべとになったけど楽しかった。

（小学4年　S・R）

●障子のはりかえがむずかしかった。

（小学4年　U・M）

ふれあいとぬくもりの商店街

JR八尾駅前商業協同組合

講演会

『鴻池新田災害略史 ～風水害、地震、人災』

講師：松田順一郎氏（鴻池新田会所）

2011年9月24日（土）
安中新田会所跡 旧植田家住宅

東日本大震災から半年以上がたちました。被災地の状況を知らせるニュースは毎日のように伝えられていますが、復興へはまだまだ遠い道のりに思えます。そして、東北の傷も癒えないまま、この秋に日本を襲った台風が和歌山県や奈良県に大きな被害をもたらしたことは、より記憶に新しい災害となりました。「災害はいつ自分の身に降りかかるかわからない」日本中の多くの方が、そのことを感じずにはいられないのではないかと思います。先日、鴻池新田会所学芸員の松田順一郎氏を講師に招いて開催された講演会では、まさにその「災害」がテーマになりました。

鴻池新田会所は安中新田会所と同じく、宝永元年（一七〇四）の大和川付け替えの後に開発された新田を管理するための会所で、宝永四年（一七〇七）に完成しています。敷地は史跡に、建物群は重要文化財に指定されており、資料館として一般公開されています。その鴻池新田会所ですが、完成直後の宝永地震（※1）や江戸時代終わりごろの安政南海地震（※2）で大きな被害を受けたようです。

また、堤防の破損や淀川の決壊による洪水の被害も続いていたようで、享保二〇年（一七三五）には河内で大被害が起こっています。近世に入ってからも、明治十八年に淀川が決壊したときには、最高水位は二メートルにも達し、水が引くまでに一週間ほどかかったと言われています。このころには　避難のときに使う船が用意してあったといいますから、いかに洪水が多かったかがうかがえます。つまり、大和川の付け替えによって河内の洪水被害がまったく無くなったのかというとそういうわけではなかったということです。この地域では、現代に入っても大雨が降ると水につかることがしばしばありました。当たり前のことですが、川を付け替えても、もともとの地面の高さが変わるわけではありません。水がたまりやすい地形であることに変わりはないのです。

過去の災害の記録を見直して未来の災害に備えようという動きが全国的にひろがっています。自分たちの住んでいる地域にかつてどういった災害が起こり、どういった被害が出たのか。それを知ることが防災の第一歩なのかもしれないと感じた講演会でした。

※1　宝永四年一〇月四日（一七〇七年一〇月二十八日）に起こった地震で、最大震度は七。東海・東南海・南海連動型地震とされています。

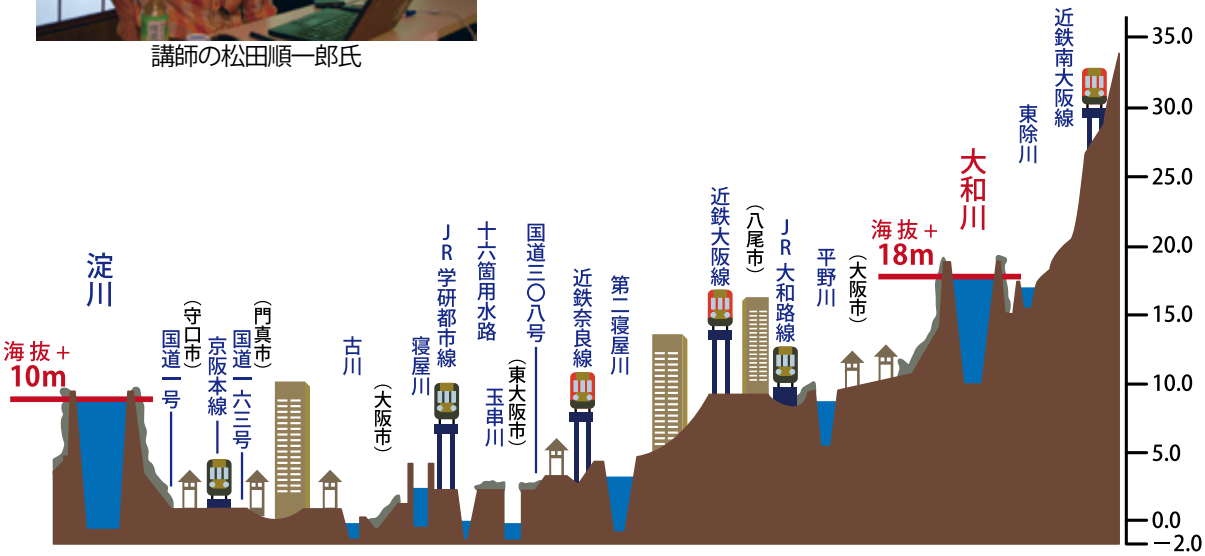
※2　嘉永七年十一月五日（一八五四年十二月二十四日）に起こった地震で、最大震度は六。この地震の約三十二時間前に起きた安政東海地震（東南海地震含む）と共に一連の東海・東南海・南海連動型地震として扱われています。この地震の後に安政と改元されました。

鴻池新田と災害史 年表

1704	宝永元年	大和川付け替え工事竣工
1707	〃４年	新田造成竣工（「新開新田」），会所完成 宝永の大地震で会所・百姓家屋・堤防に被害を受ける
1711	正徳元年	大風で百姓家屋多数損壊
1725	享保10年	徳庵井路の堤防が破損
1735	〃20年	茨田郡三矢村で淀川の堤防が決壊， 摂津・河内で稲5万石に損害
1802	享和２年	点野および仁和寺で淀川の堤防が決壊， 河内国149ヶ村で浸水
1807	文化４年	大庭八番村で淀川の堤防が決壊， 鴻池新田も被害受ける
1853	嘉永６年	大風で会所本屋が大破， 11月畿内大地震会所建物が再び大破・修理
1885	明治18年	淀川決壊し、摂津・河内大洪水， 鴻池新田の住民は日下村（生駒山西麓）に避難
1889	〃22年	淀川および大和川堤防決壊
1972	昭和47年	大東水害，鴻池新田も水に浸かる

※本年表は『鴻池新田会所パンフレット（P7.「鴻池新田関係年表」）』より
風水害に関する事項のみを抜粋し、作成しています

講師の松田順一郎氏



淀川・大和川と周辺地域の高さ（府道中央環状線付近の断面）

国土交通省パンフレットより

講座「わらを使って〝なわ〟を作ってみよう！」

夏真っ盛りの七月三十日（土）、柏原市立歴史資料館の安村俊史さんをお招きし、講座「わらを使って〝なわ〟を作ってみよう！」が開催されました。さっそく縄づくり体験をしたいところですが、そこはまず昔の道具のお勉強から。わらの干し方や、干したわらをやわらかくするために何度もたたくことなど、わらで道具を作る前の作業から、わらで作られたいろいろな道具について教えていただきました。

続いて場所を土間に移して、わら縄づくり体験です。まずは安村さんがお手本を見せてくれました。慣れた手つきでスイスイ縄ができていくので、「これって、ものすごく簡単なんじゃないの？」と思ったのですが、いざやってみると…「ん？わらに〝より〟がかからない…」やっぱりちょっと見ただけですぐにはできませんでした。しばらくやってみてわかったのですが、どうやら手を揉むようにしてわらによりをかけていくのが縄をなうコツみたいです。（あくまで個人的な感覚です）

参加してくれたこどもたちの様子を見てみると、あっさりとできるようになっている子もいれば、悪戦苦闘している子もいる様子。それでも親切丁寧にやり方を教えていただき、最後には、みんな縄とびができるくらいの縄を作ることができました。

縄づくりはいろいろな道具を作る基本中の基本。今度はレベルアップして、わらじ作りにも挑戦してみたいと思います。

わらの状態です

わらじ…

しめなわ…

なわを作ってみましょう

こども 河内木綿 体験と講座

◎河内木綿を知ろう！

まだ暑さの残る九月十一日（日）、八尾市内のいくつかの施設や団体でも河内木綿の収穫やイベントが行なわれる中、旧植田家住宅では「こども河内木綿体験と講座」が行われました。例年は、河内木綿入門や、少し大人向けの講座と体験が行われていましたが、今年はこどもを対象に企画されました。

〝河内木綿を知ろう〟というタイトルのもと、総勢八名のこどもと大人が参加してくれました。講座では、当館学芸員が河内木綿の歴史や特徴についてスライドや実物を使って説明をし、体験では実際に着物を着ることができました。また、おなじみの綿くりや糸つむぎの体験は、一人ずつゆっくりと段階的に体験することができ、終始笑顔の「体験講座」となりました。

終了後、おまけ企画としてＪＲ八尾駅前花壇の河内木綿の収穫に希望者と共に出かけましたが、全員が参加。こちらも大いに盛り上がりました。ちなみに今年の収穫量は現在のところ一・四kg。終わりの頃には二kgほどになるといいのですが…。

河内木綿まつり

こちらは、八尾市立歴史民俗資料館さん主催のイベント「河内木綿まつり」です。毎年九月二十三日に開催され、今年からは三日間、開催されるようになりました。

今年で三回目となるこのイベントですが、「木綿まつり」を目当てにやって来られるお客さんが徐々に増えているようです。中には、開館前の朝九時から門の前で待っている方もおられ、八尾の人たちの河内木綿への関心も高まってきたように感じました。

旧植田家住宅では今年も河内木綿体験と展示を行ないました。主屋でする綿くりと糸つむぎは好評で、常に人があふれています。その体験の横では、河内木綿の着物や油単などが、自由に触れるように展示されました。

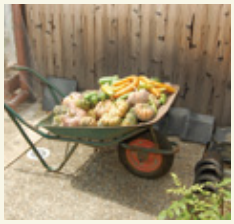
展示室では、大和川付け替えパネル展示と並列して、河内木綿製品が数点展示されました。また手紡ぎと紡績の生地の違いを比べて見ることのできるコーナーも設置され、その違いを見極めようと、来館者は展示ケースを覗きこんでいる様子でした。

河内木綿まつり期間中、旧植田家住宅には延べ七十七名の来場者が訪れました。河内木綿の秋はますます深まっていきます。

なにわの伝統野菜 栽培日記

No.10

立派に育ったキュウリを収穫



試食会の様子

収穫された野菜

みんなで記念撮影

【まさかの試食会】

昨年、不作だった毛馬胡瓜も、今年は独特の苦みが強いながらも、黒門越瓜、勝間南瓜と共にたくさんの実を収穫できた。夏の間、水やりなどを頑張った子どもたちをメインに収穫祭の後、恒例の試食会。

昨年は、勝間南瓜を薄味で炊き、アンコと共に食べ、かなり好評だったが、今年は目先を変え、スイートポテト風にしようと試みた。ところが、奇しくも日本かぼちゃ本来の水っぽさが災いし、全く形にならず、途中で断念。しかも、バターや砂糖を混ぜてしまっていたため、薄い食パンに塗って食べる「ジャム風カボチャペースト（？）」らしき不思議な食べ物に変身してしまった。子どもたちに「お味のほうは？」と尋ねると、言いにくそうに「う～ん…。」と首をかしげた。…やはり、大失敗だったようだ。

越瓜は、薄味で炊いたものとシンプルに塩もみしたものを試食。そして問題だったのは毛馬胡瓜。先にも書いたが、例年になかったほどの苦み。もちろん子どもたちには苦すぎて、誰も食べることができなかった。この強すぎる苦みに関しては、原因は不明。種の良し悪しか、はたまた土との相性か？結局、一番人気があったのは、簡単に塩もみしただけの越瓜の漬物だった。

前日から、張り切って「その他のもの」を作り悪戦苦闘したスタッフたちにも、文字通り〝苦〟笑いな試食会となった。そして、十月初めの今は、また子どもたちが植えた冬野菜が芽を出し始めている。

＊総収穫量
- 勝間南瓜　八十九個
- 黒門越瓜　八十五個
- 毛馬胡瓜　八十八本

【トマトやぁ～～】

近隣の幼稚園の園児に食べてもらおうと育てていたプチトマトも、思っていた以上にたくさんの実をつけてくれた。トマトが好きな園児は、「すごく甘―い！もう一個ちょーだい！」。しかし、中にはどうしても苦手な園児も数名いた。それでもみんな頑張って食べてくれた。トマトの収穫量は二〇〇粒ほどあった。

時期が終ったトマトに代わり、もうすぐイチゴの苗を植え、来年の春には真赤な実を、また園児たちに食べてもらおうと予定している。

旧家（きゅうか）で愉（たの）しむ食事会（しょくじかい）

〝植田家に伝わる食器〟と〝植田家で栽培された野菜〟を使った料理を〝植田家の座敷〟で愉しむ企画「旧家で愉しむ食事会」。

八月四日（木）、三回目の開催となった今年も、地元商店街の料理店「創菜庵ひろなお」（植松町）さんにご協力を頂きました。今回は、〝黒門越瓜の炒め物〟に〝勝間南瓜のあんかけ〟〝毛馬胡瓜のうざく〟など、旧植田家住宅の畑でとれた野菜と、八尾特産の枝豆や旬の食材を使った料理が、彩りも鮮やかに用意されました。

お愉しみの時間の前は恒例となった夜間見学。食事の準備が整うまで、学芸員の案内で夜の旧植田家住宅を見て回ります。食前の軽い運動にもなり、心もお腹も準備万端で食事会を迎えました。

閉館後のイベントともあって、ライトアップされた建物や庭がさらに食事会を盛り上げます。参加者の方々からは、「この器はいつ頃のものかな？」「旅館に泊まってる気分！」と、いつもながらに満足頂いている様子が伝わってきました。往時の植田家の賑わいの様子を偲べる夜のひと時でした。

※今号の連載「植松のまち・ひと」はお休みします。

マンジーくん

安富士 曉

おいしいお茶は心を
豊かにしてくれます‥

暮らしのお茶からギフトまで・・・
0120-19-1184

店主のおすすめ
深蒸し煎茶　芳水　100g/200g
深蒸し煎茶　清緑　200g
おいしいティーパック 5g×18パック

おいしいお茶は専門店で
龍華茶舗

〒581-0083 八尾市永畑町2丁目1-1 Tel.072-993-5673/Fax.072-923-5828

コラム

落穂拾い
―今東光の薫風―（四）

文・伊東 健

今年六月、岩手県平泉中尊寺を中心とする一帯がユネスコの「世界文化遺産」に正式登録されました。

この中尊寺及び金色堂は、昭和四〇年（一九六五）十二月二七日から、昭和五二年（一九七七）九月十九日、今東光がその生命が尽きるまで住職を務めた寺院です。

東光が住職を引き受けた時期というのは、昭和二五年（一九五〇）三月に学術調査団が金色堂へ科学調査に入り、初代清衡、二代基衡、三代秀衡のミイラ及び四代泰衡の首級を発見し、昭和三七年（一九六二）より六ヵ年の歳月と一億六千万円余の費用をかけて修理復元していた大変な時期でした。

東光は記しています。

これは思いがけない重荷ではあったが、ひとたび法衣を身に纏うて河内国天台院、泉州貝塚市の水間寺、尾張国春日井市の密蔵院、同じく愛知県海部郡大治村の明眼院を兼務し、これが復興に辛苦しつつある僕の運命と甘受した。

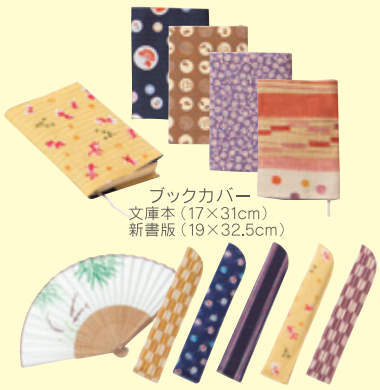
（中略）

新貫主として僕の出来ることは、わずかに口舌を弄し、聊か文章を草するしかない。しかしながら一管の筆は堕夫を立たしめ、三寸の舌も人の魂を刺すことは可能だ。僕は自ら、つとめよや、つとめよや、と言い聴かせているのである。

（昭和四二年三月三日 淡交新社発行『平泉中尊寺』より）

七〇歳の坂を目前に、大仕事に挑む一人の男の覚悟がこの文章には溢れだしています。まだ、東北新幹線も高速道路も通らない時代に、東光はこの中尊寺に日本国民の関心を引くために、自らを〝東夷の沙門〟と称し、東北を舞台にした小説連載（『蒼き蝦夷の血』『武蔵坊弁慶』等）を開始するとともに、中尊寺展等も仕掛け、中尊寺の国宝等も公開していきます。

今回は、ここで紙数が尽きました。次回も引き続き中尊寺の話題を書きます。



“りんごの木”では、障害をもつ人たちが
ひとつひとつ丁寧に縫製品や
手織り品をつくり働いています。

りんごの木
HOT CRAFT SHOP

社会福祉法人　信貴福祉会
りんごの木

〒581-0868
大阪府八尾市西山本町4-15-2
作業所：TEL／FAX（072）993-4330
ショップ：TEL（072）997-1440
営業時間：AM10:00～PM6:00
定休日：日曜日（臨時休業あり）

これからの展示・企画 ご案内

展示

◎10月7日（金）～11月28日（月）
企画展「植田家と大坂画壇Ⅱ」

◎12月1日（木）～1月29日（日）
「大和川付け替え関連展示」

同時開催
1月6日（金）～1月29日（日）
「施設周辺写生作品展示」（ギャラリー）

展示、イベント等のお知らせは
ホームページもご覧ください
http://kyu-uedakejutaku.jp/

企画

※毎月第1土曜日は「河内木綿体験（5名限定）」
第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催

◎11月13日（日）「旧植田家住宅で昔のくらし体験」
◎11月26日（土）文学に見る八尾
講座「今東光の昭和32年」（講師：伊東 健氏）
◎12月10日（土）「こどもガイド養成講座1」
◎12月11日（日）連続講座（全3回）
「伝統民家無名塾①」（講師：平谷宗隆氏）
◎12月25日（日）「おもちつき大会」
◎１月８日（日）「伝統民家無名塾②」
◎１月21日（土）「こどものためのお茶会」

（詳しくはお問い合せください）

11・12・1月の休館日のご案内

※○印が休館日

11 November

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

12 December

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2012/ 1 January

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

安中新田会所跡 旧植田家住宅へは公共の交通機関をご利用ください

※当施設に駐車場はございません

- JR 大和路線八尾駅下車
  南出口より東へ徒歩 3 分
- 近鉄大阪線八尾駅から
  近鉄バス藤井寺駅前行
  JR 八尾駅前バス停下車
  南東へ徒歩 6 分
- 大阪府八尾市植松町 1-1-25
- 072-992-5311
- http://kyu-uedakejutaku.jp

JR八尾店は、旧植田家住宅より西へ約２０Ｍ。ご利用をお待ちしております。

桃林堂

◎本社・陌草園（山本南）Tel-072-923-0003
◎JR八尾店（渋川神社北）Tel-072-992-4649
◎西武店（八尾西武・地下1階）Tel-072-997-2650
◎東京・上野店（東京芸大前）Tel-03-3828-9826
◎東京・青山店（表参道）Tel-03-3400-8703
http://www.tourindou100.jp

堂聚香 もなか 大坂

KYU-UEDAKEJUTAKU INFORMATION 安中新田家 旧植田家住宅だより Volume 10

本当の幸せって？
本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する現代。人々の価値観は多様化し、本当に大切なものは・・・。
そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう
変化してきているのではないでしょうか？

私たちは、人々の生活を豊かにする情報を提供する立場にあり、その在り方を考えてきました。
生産者のエゴから生まれる「形だけの豊かさ」、人々のニーズが多様化する中で、
それにあわせて生まれる「限られた豊かさ」、このような豊かさには限界があります。
これからの社会を考えたとき、本当に必要なのは、
ただ「人々の生活を豊かにするための情報提供」ではなく、「豊かな生活とは何か？」を考えるプロセスを
多くの人たちと共有し、一緒に創っていくことではないでしょうか？

**「情報をデザインする。人々とそのプロセスを共有し、
楽しむことで、継続的・発展的な新しい価値を創る。」**

私たちは、そのような存在でありたいと思っています。

本社／八尾工場　住所　大阪府八尾市弓削町南1-18　TEL.072-948-7772　FAX.072-948-7735
大阪オフィス／コミュニティデザイン部　TEL.06-4801-8200　HP. seeds-c.jp/communitydesign
東京オフィス　TEL.03-3436-0211　京都支社　TEL.075-812-3670　神戸支社　TEL.078-341-8221
SEED's CREATE 株式会社シーズクリエイト

安中新田会所跡 旧植田家住宅だより　発行・編集／NPO 法人 HICALI（安中新田会所跡 旧植田家住宅指定管理者）
〒581-0084　大阪府八尾市植松町 1-1-25　TEL.072-992-5311
ホームページ　http://kyu-uedakejutaku.jp　メールアドレス　info@kyu-uedakejutaku.jp
●本誌掲載の記事・写真・イラスト等の無断複写、転載を禁じます。